幼児の劇

長尾豊

近来、幼児劇というものが言及されてから、幼児の劇演出を試みる所も少なくないが、普通に言及される幼児劇と、幼稚園児や低学年児童の演ずる劇といふもののは、同じように取扱へならないに違いない。何か国では話される幼児劇の立場から演ぜられたものを見ると、初まつたかと思ふとすが終ればなさつて、初め何をやったのか、何をして居るのか知れねえ。少し分らないといふようなものや、さうでなければ子供が教へられた通りに動いて、ものを言つてある。少しも幼児の劇演出らしいくないやうな物である場合が多い。
うのがわ国の現状であろう、二者的測定を
平らに居られるのは、先輩小山内藤氏ほか
ソキリ立て、居られるのは、先輩小山内藤氏ほか

三の人に過ぎない。

漠然とした児童劇の議論ならばトクにかく、それ
が幼稚園とか小学校とかいふような、教養機関に
入込んで来るとすれば、モラックスなる児童劇の議論
では追附かないと思う。教養演劇の一科としての
児童演出として考へられなければならない。

幼児の劇を教養演劇中の一科として考へること
は、従じに議論をむずかしくする事ではない。たとへは
反対にその実施を容易にする事と思う。たとへは
教養演劇の中に幼児が聞いた言葉をそのまま立つ
て演ずる。といふよりは歌詞する自由劇化の言葉
あそびといふものがある。これは劇演揺の基礎と
なるものので、教養的意義も価値も、一足飛びな劇

又、西洋では幼児の遊び、唱歌、童話、話

が連絡総合されてゐるのに反し、わが国で

正しゐ幼児の劇演出を行ふ事が出不来ない結果に成

つてゐる。れどもこれは幼児の劇を教

育演劇として考へられず、又その研究の機関を


幼児の歌や話や劇などが


十分に調べられぬ


幼児の歌や話や劇などが


十分に調べられぬ
しなければ、
後はもしないという有様であるら
し。また、
劇を尊重する人は童話劇といふ名稱をさへ嫌ふ
らしで、奇し、さういふ人達の試みてゐる児童
劇であへ、その材料の多くは寓話や童話や童話の
劇化である。さうといふものを引離して、幼児の
劇を考へられないとすると、幼児演出に携はる者
は、先づ幼児の劇と共に幼児なしえについて理解
がなければならぬ事になる。

わが國では童話は童話、童話は童話、そして児
童劇は児童劇といふやうに、箇々に分れてゐるが、
少なくも此の三つうちのものは、児童文学として、連
絡して扱わなければならぬものと思ふ。又、童
話をとりとか、話方とか、劇の演出とかといふ風に、
更に細かく幾つかにも分れて行くが、これも遊戯や
手技や児童画と共に、児童芸術として箇々別々な
ものでなく、総合的に取扱ばれてゐる好いと思ふ。